

琉球大学学術リポジトリ

秀れた竹は秀れた地下茎から 一竹の栽培 (2)

—

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大山, 保表 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19614

秀れた竹は秀れた地下茎から

一竹の栽培 (二)

四、掘り取り及植え付けの時期

春タケノコの発生する前又は発生して間もない頃に掘り取つて速に植え付ける。竹種によるつてずれがあり三―五月頃となる。苗の掘り取り、荷造り、運搬、植え付け等は、はたいてい根毛や地下茎や芽やタケノコや母竹をいたためたり切りはなしたりしないように注意する。苗は乾燥させないように速に植え付ける。

五、植え付け本数

一反歩当り植え付け株数は竹材採取林はタケノコ採取林よりも

多く細竹種は大竹種よりも多く、やせ地では肥よく地よりも多くそれぞれ植え付けるもので大竹種が五〇―一〇〇株細竹種は三〇―一五〇株植え付けにする。

苗が得難くて高価な場合は植え付け株数を少なくして掘り起しをしたり施肥を充分にし又防風林や水害防備林の柱立に当つて成林を急ぐ場合は植え付け株数を増してもよい。

六、竹苗の選定

若くて元気なよい太い地下茎は太い竹を多数発生するが若過

ぎる地下茎はほとんど竹を殖しない。老いた地下茎は竹の発生本数が急に減じ又発生竹も次第に細くなる。

よい苗とは地下茎の年令が太竹種二―三年生、細竹種一―二年生の太い地下茎で、多数のタケノコとなるふくらんだ芽又はタケノコや一―二年生の元気なよい竹をつけ、各種にも元気な根毛を多数つけた明黄色をした地下茎のことである。以上の条件をそなえた苗を選ぶ。

七、竹苗の種類

植え付け用の竹苗には次の三種類ある。

母竹苗

若い元気なよい太い地下茎に元気のよい一―二年生母竹をつけたものを掘り取つて長さ六〇釐前後に切り幹を下部の枝葉五―六段を残して上部を切り去つた苗のこと、植え付けの折支柱をほどかさねばならない。定植する。

根株苗

若い元気なよい太い地下茎を掘り取つて長さ六〇釐前後に切り竹には枝葉をつけず地上二〇釐の高さから切り去つて根株とした苗のこと、母竹苗より軽い。定植する。

地下茎苗

若い元気なよい太い地下茎を掘り取つて根株は全々つけなくて長さ四〇―一五〇釐に切つた地下茎だけの苗のこと、春畑に植え付けて新竹を発生させた苗を製造林地に定植する。畑へ植え付けは畦四六〇釐前後、苗間二〇釐前後に横たえて並べ、その上に一〇釐前後の土を被せて上を鋤で軽くおさえて土と地下茎を密着させてから灌水する。タケノコの発生するまで時々灌水し、タケノコが発生したら一反歩当り、うすめた人糞尿数百貫又は硫酸銨を施す。多数の苗の養成に適する。

八、竹林の地下茎誘引による拡げ方

秋一冬竹株に沿つて巾五―六米の間を掘り起して堆肥を埋め込んでおくと地下茎が伸び拡がつて新竹を発生するようになる。毎年同じ作業を繰り返して行えばよい。



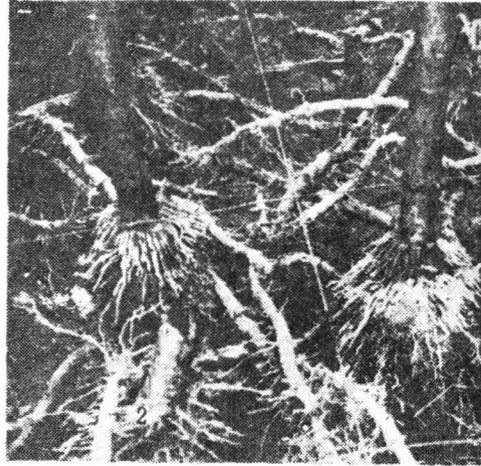
(写真説明)

しき草、土入れの作業

(林業新知識九月号より)

九、母竹の採取場所

竹林を傷めないで手軽に多数の苗を得るには竹林周辺に八の方法で新竹を発生させたもの、又は直接竹林周辺の新竹を掘り取る。又刈伐跡竹に発生した新竹を掘り取つて良い竹を選ぶ。



土中に密に広がっている地下茎と竹
(林業新知識九月号より)

十、植え付け方

地下室からタケノコ又はタケノコとなるふくらんだ芽や母竹がはかれると役立つ。苗を乾燥させない、植穴は苗より大きく深目に掘つて植え付けて土を軽くふみ固めて灌水し母竹苗を植え付ける場合は支柱をする。敷草をすれば乾燥か防げ、堆肥を植穴に施せば地下室の伸びがよくなる。傾斜では地下室の芽を上方に向けて植える。

十一、管理

植え付けから成林するまでの二三年間は春と夏に雑草を刈り払う。落葉や草は林内に放置して肥料に還元する。母竹が細くなりだしたら夏の頃に一反歩当り硫酸五一一〇貫又は硫酸尿三〇〇一五〇貫を、うすめて二、三回に分けて施す。

十二、竹の伐採

竹を伐れば新竹を自然に発生するもので、竹の伐りすかし方や、立ておく竹の本数や年令等によつて新竹の発生する本数が増減したり、太くなつたり細くなつたりする。

太竹種は四一五年生、細竹種は一三年生が材質がよく又それらの竹についた地下室はそろそろ老弱期になるので残しても新竹発生数も少ないし細い、新竹には秋頃まで貯蓄を入れておくこと年令が判る。毎年秋一冬に伐る。病竹や細い竹も伐る。一反当り伐り残す本数は太竹種五〇〇一、五〇〇本細竹種一五〇〇一四〇〇本とし伐る本数はそれぞれ一〇〇一四〇〇、五〇〇一五〇〇位とす。林内に雑草が繁殖するのには立てた竹数が少ない場合である。

十三、不良竹林の改善

不見竹林とは細く低い竹、老令の竹、病竹、等の多い竹林のことである。林内には雑草が繁殖しておる。改善法は細竹や病竹や老

夏の畜舎の衛生

現在油種で飼養されている家畜の品種に大方もつと北の方面が適地であり又それ等の地方に多く飼はれ、よりよい生産能力を発揮している。要すれば此等の家畜には油種の暑は暑過ぎる上湖、蚊その他の昆虫類にも刺し悩まされ通しで最も能力を発揮し難い環境下に在るので夏期は此の点に想いを馳せ家畜の管理に親切であらう。

吾々に新鮮な乳、肉、卵を供給する一方弗を得得し労役を振供してくれる家畜の能力を夏期にも減退させない為には飼料の種類や配合調理法に考慮を払ひ手入れにも一層注意すべきであるが畜舎内の生活を夏期如何に快適に過ごさせるかに努力が要する。

夏の畜舎の衛生は要すれば、明るくて、涼しく清潔で乾いて居り、蠅、蚊その他の昆虫のうささから被害を解放することである。

寝竹を伐り除き若い元氣な竹だけ残す。雑草は刈り払う。枝張りの強い雑木は伐り除くか枝打ちする。

生長の速い肥料木を混植する。竹林内の一部を竹の高さの1位の巾の帯状に皆伐して掘り起して堆肥を埋め込み、三年してその部分が成林したらつきつきと繰り返してゆく。但し伐採方向は風の強い方向と直角方向にする。過濕地は排水溝を掘る、琉球には放任されたり、伐り過ぎたり、乱伐されたりした不良林が多いのがそれ等の改善が速に行われることが望ましい。

十四、竹林の拡がりを止める方法

竹の根が農耕地へ侵入することを懸命しては竹林栽培の意欲は起きない。竹の根の拡がりは竹林の拡がりを防止せんとする周辺に溝を掘つて石を入れておけば根の拡がりは完全に止まる。

(大山 保 表)

斯うすることが家畜の生産能力を維持向上させ、更に肥料価値の高い日給肥料をより多く生産する事ができ延いては耕種農業からの増収を遂げさせる基盤になる。

さて衛生的見地から見ての油種農村での畜舎改善の要点を挙げて見ると。

一、畜舎の位置方向

現在も余り変りないが、戦前は屋敷の向きはどうであらうと畜舎は門を入つて直ぐ左に位置し、豚舎は一番左奥で住居の裏にあつたが、これは夏の強い日射を避けると共に夏に多い東南風を充分に通すように東南向きに建てるべきである。現在建つている畜舎もこの趣旨に叶ふよう改造させ度いと思ふ。耐風の建物を建てるなら西と北側は山で東南の開放た小高い土地が得られば明るく、涼しく、雨天にも湿らないから理想的畜舎位置と云へる。